

ポスターセッション

18:20 ~ 19:00

ポスターセッション A)「新規手法による解析」

座長：沢村 達也 (信州大学医学部分子病態学)

A-1) 心血管疾患研究へ適用可能な新規ラベル化剤によるアミノ酸及び短鎖ペプチドの高感度分析法の開発

演者：掛谷 秀昭 (京都大学大学院薬学研究科)

A-2) 免疫細胞の遺伝子変異に着目した HFpEF の新規病態解明

演者：由良 義充 (名古屋大学医学部循環器内科)

A-3) 発生期心臓内領域特異的エンハンサー探索と欠失モデルマウス表現型解析

演者：有本 瑞季 (立命館大学大学院生命科学研究科)

A-4) 心臓流出路特異的エンハンサーを介した転写制御メカニズムの解析

演者：久安 由騎 (立命館大学大学院生命科学研究科)

A-5) High throughput screening assay により同定した RFN-409 は圧負荷による肥大と左室収縮能低下を抑制した

演者：前田 莉沙 (静岡県立大学薬学部分子病態学教室)

ポスターセッション B)「予後予測と心不全創薬」

座長：木内 俊介 (東邦大学大学院医学研究科循環器内科学)

B-1) ハイリスク患者の原因別死亡リスクとの関連における VEGF-C と VEGF-D の相違：The ANOX Study

演者：和田 啓道 (国立病院機構京都医療センター)

B-2) 心不全患者における右脚ブロックと再入院リスクの検討

演者：佐野 隆英 (東邦大学大学院医学研究科循環器内科学)

B-3) 新規クルクミン製剤である curcuRouge™ は心筋梗塞モデルラットにおいて収縮能の低下を抑制した

演者：中西 俊輔 (静岡県立大学薬学部分子病態学)

B-4) 心筋特異的 PRMT5 KO マウスは拡張型心筋症様症状を示す

演者：鳴田 竜也 (静岡県立大学大学院薬食生命科学総合学府分子病態学講座)

B-5) 圧負荷心不全モデルマウスにおいて BRG1 阻害剤 PFI-3 は心収縮機能悪化を改善した

演者：眞鍋 智弘 (静岡県立大学薬学部分子病態学分野)

ポスターセッション C)「多能性幹細胞・心毒性」

座長：牧山 武 (京都大学大学院医学研究科地域医療システム学・循環器内科学)

C-1) 抗ヌクレオリンアプタマー iSN04 による多能性幹細胞の心筋分化誘導

演者：高谷 智英 (信州大学大学院総合理工学研究科)

C-2) 抗がん剤ドキソルビシンの心拍生成機能への影響

演者：中尾 周 (東海大学医学部生体機能学領域)

C-3) ヒト iPS 由来心筋細胞を用いたドキソルビシン誘導心毒性に対する PDE 阻害による心保護作用の検討

演者：立松 蓮 (静岡県立大学薬学部生体情報分子解析学分野)

C-4) ノビレチンはドキソルビシン誘発心毒性に対する保護効果を示した

演者：稲井 恭子（静岡県立大学大学院薬食生命科学総合学府分子病態学講座）

C-5) ペーシング刺激によるヒト iPS 細胞由来心筋細胞の電気生理学的解析

演者：新津 宗馬（静岡県立大学薬学部生体情報分子解析学分野）

ポスターセッション D) 「電気生理・iPS 細胞」

座長：杉山 篤（東邦大学医学部医学科薬理学講座）

D-1) ニコチンが誘発する電氣的・機械的特性とカルシウム動態の変化により、ヒト iPS 細胞由来心筋細胞シートの弛緩能と電氣的統合性が悪化する

演者：中瀬古（泉） 寛子（東邦大学医学部薬理学講座）

D-2) 二卵性双生児男女由来 iPS 細胞による性差解析実験系の構築

演者：若林 聖士（静岡県立大学薬学部生体情報分子解析）

D-3) 敗血症モデルマウスにおける心機能障害の *in vivo* 解析

演者：秋丸 友紀乃（静岡県立大学薬学部生体情報分子解析）

D-4) 人工 Notch 受容体を用いた誘導性心筋細胞の作製

演者：中原 正登（立命館大学大学院生命科学研究科）

ポスターセッション E) 「心不全分子生物学」

座長：黒川 洵子（静岡県立大学薬学部生体情報分子解析学分野）

E-1) クルクミン誘導体 GO-Y022 はクルクミンより低用量でマウスの圧負荷心不全を改善する

演者：品川 統也（静岡県立大学薬学部分子病態学分野）

E-2) 線維芽細胞特異的 p300-BP1KO マウスは圧負荷による心線維化及び心筋肥大を抑制した

演者：峯岸 龍志（静岡県立大学薬学部分子病態学分野）

E-3) 転写因子 GATA4 の二量体形成が心筋細胞肥大反応を制御する

演者：須藤 優（静岡県立大学薬学部分子病態学分野）

E-4) 天然物サンショウ抽出物 Compound X は圧負荷による心筋肥大や心機能低下を改善させた

演者：高橋 寧音（静岡県立大学薬学部分子病態学分野）

E-5) 心臓特異的 p300-BP1 ノックアウトは圧負荷による心筋肥大及び心不全の進展を軽減させた

演者：鈴木 悠斗（静岡県立大学薬学部分子病態学分野）

ポスターセッション F) 「心不全動物モデル」

座長：川村 晃久（立命館大学生命科学部生命医科学科幹細胞・再生医学研究室）

F-1) オオイタドリ若芽エキスは心筋梗塞後の心不全の進展を抑制した

演者：坂 侑子（静岡県立大学薬学部分子病態学分野）

F-2) 圧負荷心不全モデルマウスにおいて、ショウガ抽出物である 6-shogaol は心不全の進行を抑制した

演者：川瀬 裕斗（静岡県立大学大学院薬食生命科学総合学府分子病態学講座）

F-3) ヒスチジン含有ジペプチドであるアンセリンは p300-HAT 活性阻害により、心筋細胞肥大および圧負荷モデルマウスの心収縮能低下を抑制した

演者：色川 雄大（静岡県立大学薬学部分子病態学分野）

F-4) 低分子化合物 A485 は p300-HAT 阻害作用により 圧負荷心不全モデルマウスの心機能悪化を抑制した

演者：山本 みずほ（徳島大学大学院医歯薬学研究部薬理学分野）

F-5) アントラサイクリン系抗がん剤による心毒性に対する黄連解毒湯の検討

演者：船本 雅文（徳島大学大学院医歯薬学研究部薬理学分野）

ポスターセッション G 「心腎関連」

座長：東條 美奈子（北里大学医療衛生学部）

G-1) 牛車腎気丸と人参養栄湯は培養心筋細胞で肥大を抑制したが、心不全動物モデルでは心機能を改善しなかった

演者：村松 祐佳（静岡県立大学薬学部分子病態学分野）

G-2) アルギニンメチル化酵素 PRMT5 選択的阻害剤は TGF- β による腎臓線維化反応を抑制する

演者：羽川 菜摘（静岡県立大学薬学部分子病態学教室）

G-3) 循環系の性差形成メカニズム解明に向けた腎臓の網羅的発現解析

演者：清水 聡史（静岡県立大学 薬学部 生体情報分子解析学分野）

G-4) リジンメチル化酵素 MLL1 は腎臓線維芽細胞から筋線維芽細胞への分化を抑制する

演者：平井 千晴（静岡県立大学薬学部分子病態学分野）

審査委員長：沢村 達也（信州大学医学部分子病態学）

研究奨励賞選考委員：木内 俊介（東邦大学大学院医学研究科循環器内科学）
牧山 武（京都大学大学院医学研究科地域医療システム学・循環器内科学）
杉山 篤（東邦大学医学部医学科薬理学講座）
黒川 洵子（静岡県立大学薬学部生体情報分子解析学分野）
川村 晃久（立命館大学生命科学部生命医科学科幹細胞・再生医学研究室）
東條 美奈子（北里大学医療衛生学部）